

WCRP

World Conference of Religions for Peace Japan

4

2023

April

No. 522



善福寺川緑地（東京・杉並）

こころの扉 — 「WCRPとの得難いご縁」 中西正史	2
第43回理事会	3
青年部会発足50周年記念行事のご案内	3
平和大学講座『戦争を超え、和解へ』	4～5
トルコ・シリア地震への支援について	6
G7広島サミット『宗教者による祈りとシンポジウム』	7
モルドバにおけるWCRP/RfP国際委員会とUNHCRとの合同訪問団	7
アジア太平洋女性信仰者ネットワーク主催 オンライン平和構築セミナー	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8



「WCRP との得難いご縁」

斯界の諸先輩方の御厚遇によりWCRPとは20年来のご縁を頂いており、学生の頃より先輩と共に立正佼成会様の本部での会合に出席させて頂いたり、青年部会の皆様方との活動の中でそれぞれの思いを語り合ったりした事は、今でも青春の日の良き思い出として心に残っています。

また現在の神社に奉職する迄は、ニューヨークの国際連合認可のNGOに赴任させて頂き、国連チャーチセン

WCRP日本委員会
活動委員会
寒川神社権禰宜

中西正史



ターを本部とするWCRP主催の行事をはじめとして、様々な行事や会合に参加させて頂きました。殊に、強く印象に残っているのが世界中からの各宗派の宗教者達と共に、広島・長崎への原爆、9・11（アメリカ同時多発テロ）、東日本大震災などで犠牲になった方々への慰霊の気持ちを含めて平和への祈りを捧げる様々なインターフェイスセミナーを奉仕させて頂いた事です。ご奉仕させて頂いた経験を通じて、宗派や民族を超えて集い丸

となつて普遍的な平和を追求する事の大切さを心から実感しました。

同時に国連NGOの一員として、国家間の国益がぶつかり合う会議を垣間見て国際社会の意見集約や利害調整が如何に困難であるかを学びました。また会議中に報道機関と共にNGO団体が会場から出るよう促される現状を目の当たりにして、国際会議の場で市民社会の一翼を担う宗教者達の声を拾い上げて貰う事の難しさも痛感いたしました。

帰国後は、神明奉仕の日常の中でWCRPと関わらせて頂く機会が無かったのですが、昨年より「ストップ！核依存タスクフォース」のメンバーを仰せつかる事となり、思いがけずニューヨークの様々な委員会などで一緒にさせて頂いた先生方と再び活動させて頂ける幸運に恵まれ、改めて「一期一会」の貴重な出会いの大切さを噛み締めております。

此度改めてWCRPと関わらせて頂く事になり国連NGOに在籍していた頃と比較すると、国際情勢は当時とは比べものにならない程に混沌を極め、一個人としても凄惨な戦争の中で戦禍に生きる一般の人々をテレビ越しに目の当たりにして、何もできないもどかしい思いでおりました。そこで、此度再度頂きましたこの得難いご縁を切欠として、今後は「ストップ！核依存タスクフォース」の皆様と共に平和な国際社会を築き上げていく為、微力ながら全力を尽くしていきたいと思っております。

第43回理事会

第43回理事会が3月14日、賀茂別雷神社（京都市）で開催された。新型コロナウイルス感染症防止のためオンラインを併用した。理事会には23人の理事（オンライン参加を含む）が出席した。

会場で参加した一行は、賀茂別雷神社本殿を正式参拝し、戸松義晴理事長（浄土宗総合研究所副所長）が代表して玉串を奉納した。

理事会では初めに、賀茂別雷神社の宮司・田中安比呂理事があいさつした。

審議事項として「日本委員会人事」「トルコ・シリア地震への対応について」「ウクライナ情勢に対する支援」「G7広島サミット宗教者による祈りとシンポジウム」「インボイス制度について」「ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）後援依頼」「第26回評議員会開催について」を



正式参拝で玉串を捧げる戸松理事長（写真中央）

議論し、すべて可決された。トルコ・シ



理事会の様子

リア地震への対応では、災害対応タスクフォースが支援の担当をすることが決まった。今後は、昨年9月に行われた第1回東京平和円卓会議に参加したシリアの宗教者やWCRP国際委員会関係者、また日本委員会が受け入れてきたシリア難民留学生たちとの情報交換を通じて、支援先を決定していく。

「G7広島サミット宗教者による祈りとシンポジウム」では、シンポジウム後に核兵器廃絶に向けた提言文を発表し、核保有国も含まれるG7参加国に対して核廃絶を訴えていく。また、インボイス制度については、日本委員会はインボイス発行事業者として登録を行わないことに決まった。

日本委員会人事は次の通り。（敬称略）。青年部会幹事（青年幹事会で推薦、理事会で選任）

退任：マリアアントニエッタ・カスッリ

（フォコラーレ運動）

青年部会発足50周年記念行事のご案内

青年部会は本年、発足50周年を迎え、5月に記念行事を開催する。1973年の発足から脈々と受け継がれた先師・先達の思いと、時代の変容に順応しながら、いまを受け継いできた青年が、平和を希求するというWCRP不変の精神を一層強く保ち、新たなステージへとさらに挑戦していく決意の場とする。

- 日時：5月13日 12時～17時30分
- 祈りの集い…蓮華王院三十三間堂 12時～13時
- 記念式典…立正佼成会京都教会 14時30分～15時30分（オンライン併用）
- 記念シンポジウム…立正佼成会京都教会 15時45分～17時30分（オンライン併用）

シンポジウム終了後に懇親会を予定しています。

※プログラムの詳細及び参加方法は、WCRP日本委員会のホームページまで



平和大学講座

『戦争を超え、和解へ』

『戦争を超え、和解へ——諸宗教は訴え行動する』をテーマに、平和大学講座が3月14日、京都市の賀茂別雷神社（上賀茂神社）でオンラインを併用して開催された。約100人が参加・視聴した。

平和研究所の竹村牧男所長（東洋大学名誉教授）の開会あいさつのもと、塩尻和子（筑波大学名誉教授）が『人類が生き残るために「敵を愛すること」は可能か?』と題して基調発題を行った。

続いて行われたパネルディスカッションでは、竹村所長のコーディネーターのもと、神谷昌道・アジア宗教者平和会議（ACRP）シニアアドバイザー、松井ケティ・清泉女子大学教授、田辺寿一郎・早稲田大学留学センター講師がパネリストを務めた。最後に、WCRP日本委員会の三鍋裕監事（日本聖公会主教）が開会あいさつを述べた。

なお、総合司会を平和研究所の安勝熙研究員が務めた。

▼基調発題（要旨）

塩尻和子・筑波大学名誉教授

世界のどの宗教も長い歴史の中で、一切暴力とかかわらないうちに来たものはない。しかし宗教は本来、人びとに平和を説き、さ



塩尻氏

まざまな欲望の束縛から解放する方法を教え、与えられた命を穏やかに生きるよう諭すものではなかったのか。仏教の「無」や「空」の教えも、キリスト教の「汝の敵を愛せよ」という「隣人愛」も、イスラームやユダヤ教の「戒律」も、苦しい現実を生きる人びとに与えられる「魂の救済装置」ではなかったのか。

宗教的な視点から考えると、暴力や殺りくは神の意思ではないという冷静な判断をする人びとは、どの時代にもいるであろう。それらの「現実的な生活者」が多数派であり、豊かな知識と宗教的信念をもつて、巨大な権力に非暴力の抵抗をすることができると、過激な「聖戦思想」も巨大な国家権力による「国家テロ」をも排除する力になることができるかもしれない。

ここで私たちは、宗教がもつ役割をもう一度、思い出してみることが必要である。「魂の救済装置」として出発した宗教は、どの宗教も非暴力を説いている。「あなたの敵を愛しなさい」というイエスの言葉は、現実には実行不可能な理想であるが、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた

がたも人にしなさい（マタイによる福音書）」という教えなら、誰でも実行することができよう。「敵を愛する」ではなく、こちらのほうを「黄金律」として尊重したのも、人間にとって実行可能な自然な教えであったということができないかもしれない。

政治権力に、教会権力あるいは宗教的権威が結託することは避けなければならぬ。しかしその一方で、いまや宗教本来の精神や理想を、政治や社会に応用するという、新しい発想の宗教観を考えると、きているのではないかと思われる。

たとえば、モーセの「十戒」に従って紛争による殺りくを回避し、イエスの「隣人愛」の精神に従って国際政治や地球環境を考え、あるいはイスラームの「タクワー（神を畏敬し教えに従う）」の精神に立ち返って謙虚に平和構築を進め、将来の人類の平和的な生存を考えるなら、宗教の理想が永続的な地球環境を維持していくための重要な役割を果たすことができるであろう。

今日の宗教的暴力は、単に宗教的要因だけで起きているのではないが、その背景には、相互の無理解が横たわっていることも憂慮すべき点である。

宗教と平和を考えるために必要なことは、宗教間・文明間対話を実行し続けることである。国際政治や環境問題においても、多宗教間で互いに理解し合い、協働することが、いまほど求められているときはない。

持続可能な平和な世界と、自然環境を地球上の子孫たちに残すために、国際政治や環境問題の解決にあたって、歴史を生き延びてきた宗教が背負う役割と責任は、今日ますます大きくなっている。科学万能の時代に暮らす私たちも、人智を超えた神・仏の教えに、謙虚に耳を傾けることが大切になってくる。

▼パネルディスカッション(要旨)

神谷昌道・ACRPシニアアドバイザー

平和を作り出す宗教者に課せられた三つの根本役割について考えたい。

国際司法裁判所のクリストファー・ウィラマントリー判事は「形成段階の過程にあるすべての法制度は、宗教的原理から多くを享受している。それは宗教の教義や儀礼、あるいは高尚な宗教神学を意味するのではなく、むしろ宗教の教えの本質に含まれる



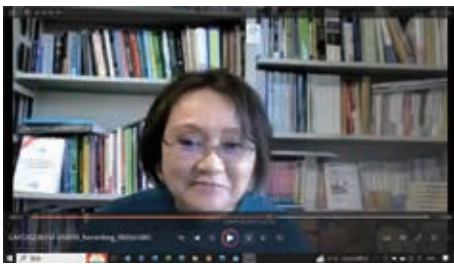
神谷氏

道徳の基本原理のことである」と語っている。このことから、「宗教は法による国際的秩序の守護者たること」という役割があると見えよう。1964年にノーベル平和賞を受賞したマーティ

ン・ルーサー・キング牧師は、その授賞式で「人類が今日生き残るためには、私たちの『道徳的・精神的』立ち遅れを除去しなければならぬ」と述べている。科学万能の時代に暮らす人間の内面的側面における倫理性・道徳性・精神性を豊かにすることが宗教者の大きな使命になってこよう。基調発題の中で塩尻先生は、「いまや宗教本来の精神や理想を、政治や社会に応用する新しい発想の宗教観を考へるときにきている」と述べられた。このことから導き出される宗教者の役割は、現実(政治)を理想へといざなうことであろう。

松井ケイ・清泉女子大学教授

私たちは「暴力を使わずに対話で対立を収める」ことができる。そのためには建設的に解決できるスキルと対話術が必要だ。そこで平和教育が重要な役割を持つ。



松井氏

戦争がない世界を築くには、平和教育は不可欠だ。「戦争は人間の心の中で始まる」と言われているが、それと同じように平和も私たちの心の中で始まる。つまり平和教育は、平和な文化を築く

ために重要な意味を持っている。平和教育の学習には、対話と修復的正義の理論と実践が重要だ。そのキーとなる要素の一つに「参加型」というものがある。プロセスに含まれるステークホルダー、被害者、加害者、コミュニティなどの関係者が集まり問題に携わる。そのときには、情報の交換、相互の合意形成が推奨され、ど

田辺寿一郎・早稲田大学留学センター講師

平和学の第一人者ヨハン・ガルトウングは、暴力を直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力の三つに分類した。

直接的暴力は、特定の人間による他者への物理的傷害行為や苦痛を与える行為。構造的暴力は、社会活動の不均衡性、政治・



田辺氏

経済・社会活動の不正義。文化的暴力とは、差別などの文化的要素。宗教は、この三つの暴力の原動力にもなる。だからこそ、三つの暴力を克服するのが宗教の役割ではないか。

トルコ・シリア地震への支援について

トルコ南部で2月6日に発生したマグニチュード7・8の地震によって、トルコ・シリア両国は甚大な被害を被った。

2カ月を経過した時点で、トルコでは約5万人、シリアでは約6千人の犠牲者が確認され、いまなお250万人がテントでの避難生活を余儀なくされていると報道されている。

WCRP日本委員会は、緊急支援募金の呼びかけを開始するとともに、緊急支援として、シリア国内で支援活動を行う二つの市民団体、White Helmets（ホワイトヘルメット）とMolham Volunteer Team（モルハムボランティアチーム）に支援金の緊急拠出を行った。

これらの団体は、震災前よりシリア北西部において内戦被災者の救助や治療、紛争孤児への教育支援などの人道支援を行ってきた。

シリア国内で活動する団体へ拠出を行った理由は、2011年から続く内戦によって国内のインフラが著しく不足している

中、とくに地震で被害に遭った北西部地域は、シリアの反政府組織が支配する地域であり、当初より生活基盤が脆弱な状況に置かれていた。

シリアのこうした状況の中で、今回の地震被災地では、シリア政府や国連などの国際機関の支援がトルコに比べ、滞っている状況が報告されている。

そのような状況を鑑み、WCRP日本委員会は、シリアにおける救援活動に重きを置き、その方策を探った。

同日本委員会は、2017年より5年間にわたり、シリア難民を「日本語を学ぶ留学生」として受け入れてきた。まず、このシリア難民留学生と連携し、意見交換を行いつつながら支援先について検討した。

次に、日本委員会のムスリム関係者とも協議を行い、支援先を具体化した。それが、シリア北西部において支援活動を行っている先の二つの市民団体であり、各約100万円を緊急的に支援することを決定した。これらの支援は緊急的な支援であり、今後の本格的な支援が求められている。

地震発生直後から始めた緊急支援募金に

対し、3月末現在3千861万6千952円が寄せられた。

今後、日本委員会は、この地震の被災者救援ならびに復興に向けた支援活動を、災害対応タスクフォース（責任者・黒住宗道理事）のもと実施していく。

現在、検討が進められているのは、WCRP国際ネットワークを活用した支援である。昨年9月、日本委員会は、同国際委員会とともに第1回東京平和円卓会議を開催し、この会議にトルコ、シリアに関係する宗教指導者が出席した。これらの関係者を通して、宗教者ならではの被災者の精神的ケア、地域コミュニティの再建といった中長期的な事業を実施する。

併せて、日本委員会と長年にわたって共に人道支援を行っている日本のNGOとも連携を強化し、救援活動を実施する。

日本委員会の支援方針は、①失われたいのちへの追悼と鎮魂②今を生きるいのちとの連帯③これからのいのちへの責任——である。

この方針に基いた諸宗教の連合体との特徴を活かした支援を行う予定。

WCRP日本委員会主催

**G7広島サミット『宗教者による
祈りとシンポジウム』**

G7広島サミットが5月19日から21日まで、広島市内で開催される。同サミットは、核兵器廃絶やウクライナ情勢などについても討議される予定。

サミットに向けて、WCRP日本委員会は、次の概要の宗教者会合を開催し、宗教者の祈りにもとづくメッセージを発信する。

◇開催日程…5月10日(水)

第1部 13:00～13:50 「平和に向けての諸宗教による祈り」

第2部 13:50～17:00 「G7広島サミットに向けてのシンポジウム」

◇会場…カトリック幟町教会 世界平和記念聖堂（広島市中区幟町4-42）／オンライン配信

※同時通訳…日本語、英語

第1部では、浄土真宗門徒・森重明氏の被爆証言、諸宗教者による平和に向けた祈りを行う。

第2部では、サミットに向けた提言文についての話し合いを行う。

WCRP日本委員会・戸松義晴理事長や立教大学・西原廉太総長、中国新聞社・宮崎智三特別論説委員らが発言する予定。

※参加申し込みは、WCRP日本委員会ホームページまで

**モルドバにおけるWCRP/RfP
国際委員会とUNHCRとの
合同訪問団**

WCRP/RfP国際委員会は1月30、

31の両日、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と共にウクライナ隣国のモルドバを訪問し、現地から諸宗教指導者による難民支援の必要性を世界中の宗教者に呼びかけた。

訪問団にはWCRP/RfP国際委員会共同議長のエマニエル・アダマクス府主教（トルコ・カルケドン長老府主教）、同じく共同議長の庭野光祥立正佼成会次代会長、アッザ・カラム同国際事務総長をはじめ、20人を超える諸宗教者が参加した。

訪問団の目的は、モルドバ政府が困難な状況下でウクライナ難民の受け入れに尽力している状況を公開し、難民とモルドバ国民への連携を示して、モルドバ政府やUNHCRが実施している難民支援に対する協力を世界に伝えることにある。

2日間の行程で訪問団は、難民支援にあたってはキリスト教やユダヤ教の施設を訪問するとともに、首都キシナウで現地の宗教者や支援者、難民との対話などを行った。また、現地においてWCRP/RfP国際委員会からモルドバ駐在UNHCRに対する支援金贈呈も行われた。

アジア太平洋女性信仰者ネットワーク主催 オンライン平和構築セミナー

アジア太平洋女性信仰者ネットワーク（APWOFN）は3月9日、平和構築と和解に関するオンラインセミナーを開催。『アジアでの平和構築と和解に女性の参画を促す』をテーマに、アジア・太平洋地域から60人が参加した。開会にあたり、仏教、イスラーム、キリスト教、ヒンドゥー教の代表者が祈りを捧げ、篠原祥哲ACRP事務局長が歓迎あいさつ、エルガ・サラブンAPWOFN議長（インドネシア）が開会あいさつを述べた。



セミナーの様子

最初のセッションでは、スフィンアトメット・ユニヤシットAPWOFN副議長がモデレーターを務め、アリファ・ラマワティ博士（ASEAN女性平和登記所インドネシア代表）、松井ケテイ教授（清泉女

子大学）、ルアングオ・チャンチェイ氏（国連女性機関インドネシア事務所）が発題を行った。

ラマワティ博士は、インドネシアで活動するイスラームを基盤とした女性団体による女性や子どもを対象としたヘルスケアや教育の提供、ジェンダーに基づく暴力からの保護の取り組みを説明。松井教授は、東北アジアでの平和教育の展開などについて述べた。

続くセッションでは、東アジア、南アジア、東南アジア、太平洋地域に分かれて、それぞれの地域における紛争や平和構築の課題が共有された。地域ごとのセッションを受けてAPWOFNの今後の計画が議論された。

最後に、河田尚子APWOFN事務局長（アル・アマーナ代表）が閉会あいさつを述べた。

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し、新しい熟語を作ります。

会行（あいにく）

5月から新型コロナウイルスが5類に移行するに伴い、自粛ムードが緩和され対面の出会いがたくさんあるように願っています。

WCRPの活動

《4月》

10日 ストップ！核依存タスクフォース第1回会合（オンライン開催）

12日 青年部会第1回幹事会（京都・立正佼成会京都教会）

13日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」森の整備（埼玉・所沢）

* 18日も同

16日 気候危機タスクフォース「タケノコ掘りde森づくり」（埼玉・所沢）

* 14日まで

《5月》

10日 G7広島サミット「宗教者による祈りとシンポジウム」（広島）

13日 青年部会発足50周年記念行事（京都）
掲載内容の無断転載を禁ず。